会議録

会議の名称		第２回小金井市いのち支える自殺対策計画策定委員会
事務局		福祉保健部　健康課
開催日時		令和５年８月２８日(月)　午後２時から午後３時３０分まで
開催場所		小金井市保健センター　講堂
出席者	委員	委 員 長　大森　美湖　委員長 副委員長　河西　あかね　副委員長 委　員　羽田野　勉　委員　則武　辰夫　委員 川畑　美和子委員　太田　篤胤　委員 齋藤　寛和　委員　尾崎　庸子　委員 田部井　由美子　委員　波田　桃子　委員 紅谷　昌元　委員　塩原　真一　委員 古澤　精一　委員　島田　浩明　委員
	事務局	福祉保健部長　大澤　秀典 福祉保健部健康課長　伊藤　崇 福祉保健部健康課健康係長　永井　桂 福祉保健部健康課健康係主任　岩崎　まり子 福祉保健部健康課健康係主任　萩野　裕人 福祉保健部健康課健康係主事　大久保　美奈子 株式会社名豊　担当者
傍聴の可否		(可)・　一部不可　・　不可
傍聴者数		０人
会議次第		１　開会 前回欠席委員自己紹介 ２　議事 ⑴　こころの健康に関するアンケート調査結果等について ⑵　次期自殺対策計画の趣旨等について ⑶　小金井市における自殺の特徴について

	⑷　次回の開催について ⑸　その他
発言内容・発言者名 （主な発言要旨）	別紙のとおり
提出資料	資料１　小金井市こころの健康に関するアンケート調査結果等について 資料２　計画策定に当たって

別紙

第２回小金井市いのち支える自殺対策計画策定委員会　会議録（主な発言要旨等）

１　開会

前回欠席委員自己紹介

２　議事

⑴　こころの健康に関するアンケート調査結果等について

事　務　局　　≪資料１に基づき説明≫

委　員　長　　だたいまの資料の説明について、質問のある方はご発言を。

太 田 委 員　　年齢層として一番デリケートな１８～２９歳の年齢層の回答がひときわ少ないが、年代に偏りなく、均等にアンケートを発送したのか。

事　務　局　　年代別、性別等に偏りがないよう、均等に調査票を送付した。

太 田 委 員　　つまり、この年代の回答率が低かったという理解でよろしいか。

事　務　局　　その通りである。

齋 藤 委 員　　令和元年と令和５年を比較しているが、Ｎが全然違う。令和元年は９８９、今回は５００ちょっと、なぜこんなに違うのか。それから、比較をする場合には、その集団の同一性を検証しなければならないが、例えば年代別とかあるいは男女別の構成に差がなかったことは検証されているのか。早急にやっていただきたい。

株式会社名豊　　まず、Ｎ値の違いについては、前回調査では、３，０００通配布して９８９通の回収数となっており、配布数の違いが出ている。

性別や年代別の偏りについては、有意差判定が必要かと思うので、今後事務局と相談し、対応していきたい。

則 武 委 員　　１ページ目の調査概要、調査方法並びに回収状況の確認であるが、有効回答率が若干下がっている。また、有効回答数のうち、紙が４１６、ウェブが１６９ということで、前回はウェブ回答は行っていなかったと思うが、その点に対する事務局の考えを伺いたい。私の考えとすればウェブをやったことによって回収率が上がったということで大変評価できるという面と、この１６９通のウェブの回答がないと結局４１６通の文書回答、割合にすると２０％弱ということになる。前回の会議でこの調査はボリュームもあり、なおかつデリケートな内容だということの指摘があったが、そうなると、なおさらこのウェブによる配布・回収ということが大変有効であ

ったということが裏づけられるし、それでも回答率が下がっているということを含めて、調査の見解をまとめてお願いしたい。

株式会社名豊　他の自治体の事例も含めた中での回答になるが、紙媒体だけではなく、ウェブが入ることによって回答率が若干上がるというところがある。しかし、これまで紙媒体で回答された方がウェブへと移っていくというような形で、新たな掘り起こしというところが課題となる部分もある。ウェブがなかった場合、２割ぐらいの回答率になるということは一概には言えないかと思う。ただ前回より若干下がっているところがあるので、そういった様々なツール、媒体を使っていくというのは今後必要なところなのではないかと思う。

則武委員　先ほど若い方の回答が低いという指摘があったが、この調査の特徴を配慮したときには、このウェブによる実施・回答というのが有効であったと評価をしている。今後は、そこを工夫して検討していくことが必要ではないかと感じた。

委員長　ウェブの回答者の年齢層は、１０代等の若い人が多いか。

株式会社名豊　手元資料では持っていないが、ウェブ回答者の年齢層を出すことは可能である。

委員長　スマートフォンが普及してＱＲコードで回答するアンケートなども非常に増えており、高齢の方でもＱＲコードを使うことに慣れてきている。ウェブ回答者の年齢層を分析することによって、次回、アンケート調査を行う際の参考になると思う。

尾崎委員　令和元年度は配布数が３，０００通、今回２，０００通であるが、コロナ禍で自殺者が増えているという中で１，０００通減ったのはどうしてか。

事務局　予算上の問題で、今回２，０００人に送付ということで決定した。

委員長　先ほどのウェブの方法とも関連するかと思うが、今回、オンラインにつなげる方法はＱＲコードでよいか。

事務局　調査票にあるＱＲコードからアクセスする方法である。

委員長　調査票で回答する場合も、ウェブ回答の場合も、いずれの方法でも送る費用がかってしまっているということでよいか。

事務局　その通りである。２，０００人に対して紙で送って、紙かウェブで回答いただく形である。

委員長　現状では、限られた予算の中で人数増やすのは難しいため、予算がかからない形でアンケート調査ができるかどうかというのが次の検討課題となるかと思う。

川畑委員　自由意見の中で何か特徴的なものが見られたのであれば教えていただきたい。

株式会社名豊　　アンケートの自由意見はどう取りまとめていくのかを今検討中である。次回の会議にはそちらの結果を提出できるようにしたい。

太 田 委 員　　前回の会議の中で、年代として１８～２９歳というところが、自殺者が多かったような印象を持っている。全体でどう動いているかよりも、その年代層でどうなっているのかということも検討したほうがいいのではないか。

副 委 員 長　　関連で、１５ページ「自殺対策は自分自身にかかわる問題だと思いますか」というところでも、１８～２９歳、３０歳代といった若年層が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が多い。ほかの設問でも、自殺が身近な問題と感じている割合が多かった。また、３５ページ「誰かに相談をしたりすることは恥ずかしいことだと思うか」の設問を見ると、相談することについて抵抗があることがうかがえる。若者の自殺が減らないという背景が、前回と比較することで見えるかと思うので、そういった背景の変化を見ていきたい。

事　務　局　　今回のアンケートの結果の取りまとめには、クロス集計に基づいた分析的な要素は少ないが、実際に第２次の計画を策定するときには、現計画と同様に、主要なアンケート結果は冊子の中にまとめさせていただく。その中には、項目別に年代ごとに読み取れる傾向や分析結果をもう少し詳しく記載する予定である。次回の会議以降、皆様に資料をお示しできたらと考えている。

委　員　長　　今の指摘は、非常に重要な点だと思う。７５ページにもあるように、「本気で自殺したいと考えたことがあるかどうか」という問いに対して、１８歳から２９歳というのは、「考えたことがある」と回答した割合が多い。全体の自殺率が減ってきたとしても、１０代が抱えている問題について、今後どう小金井市で取り上げていくかということは大きな課題になるかと思う。

副 委 員 長　　４５ページ、「誰に相談するかどうか」というところでも、若い人たちは、「相談しないと思う」と答えているのが非常に多い。それを踏まえて、今後どうしたらいいのか考えていかなければならないと思う。

委　員　長　　先ほど事務局から説明があったように、今後、次の対策といった話になったときに、年代別の特徴はどうかといお話になっていくと思うので、その際にまた御意見等いただきたい。

⑵　次期の自殺対策計画の趣旨について

⑶　小金井市における自殺の特徴について

委　員　長　　事務局からの説明から、自殺率という数値でいうと小金井市は減少しているが、４０代、５０代男性の有職者と、特に２０代以下の学生・生徒の問題が小金井市で注目していかなくてはいけないということがうかがえた。

だたいまの資料の説明について、質問のある方はご発言を。

羽田野委員　　平成３０年に小金井市は自殺死亡率が１８．３まで上がっているが、その理由は分かっているのか。また、直近の自殺死亡率が５．６と下がっているということを考えると、目標値が２７年度２０．４から令和８年までに１４．２というのはちょっと高いような気がする。東京都の数値目標にこだわる必要はないと思うが、その辺はどう考えているのか。

事　務　局　　自殺死亡率の平成３０年の１８．３について、高い理由については把握できていないので、検証したい。

また、目標値については、国と都で平成２７年度の死亡率から令和８年度までに３０％減少させるということを目標としているので、そちらの計画大綱と整合性を合わせる形で３０％とする。ただ、令和４年の自殺死亡者数が７人ということを重く受け止めて、自殺者数をなるべくゼロに近づけるような形で取組を推進していきたいと考えている。

太田委員　　自殺者数というのは、亡くなった場所が小金井ということなのか、住民票が小金井にある方ということなのか、どちらか。

事　務　局　　住居地が小金井市という方の数となっている。

太田委員　　住民票を移さずに、小金井に住んでいて亡くなられた方は入らないということか。

事　務　局　　その通りである。小金井でたまたまお亡くなりなられたという方についてもこちらには入らない。

太田委員　　地方から出てきた学生は、住民票を移していない人もいるかもしれないので、実際は小金井で亡くなっている方がもっと多い可能性がある。

副委員長　　統計のとり方で発見地と住所地と２通りある。発見地のデータもあると思う。

事　務　局　　厚生労働省のデータがあるが、この資料は住居地のデータを基に資料を作成している。

齋藤委員　　１７ページの「対策が優先されるべき対象群の把握」について、自殺者数が多い集

団を選んでいるが、これは誤りではないか。自殺者数ではなく、自殺死亡率の高い集団が危ないのではないか。そのほかの分析でも、母集団の数を無視して、数の多いものを危ないとか特徴があるとしているが、母集団の数が大きく違うものを数だけで比較しても全く意味がないので、そこは考え直していただいたほうがいいと思う。例えば、自殺死亡率では、２位のほうが１５倍も高い。同居の人のほうが独居より危ないように書かれているが、母集団の数が全然違うので、修正が必要であると思う。

事　務　局　　再度検討したい。

則武委員　　あくまで前回の令和２年につくられた計画の改訂版をつくるという前提に立った上で、２点意見がある。現在の計画があるので、基本的には、計画策定の趣旨は変わらず、若干アレンジするなり、この５年間で新しい状況ができたことを付け加えるということになると思う。

１点目として、まず１ページの冒頭、「自殺は、その多くが追い込まれた末の死です」と始まる文章に違和感がある。いきなり「自殺は追い込まれた末の死です」というのは強烈過ぎないか。それよりも、様々な経過があって、それに新型コロナウイルスの影響を付け加え、誰にでも起こり得る危機だからこそ、国ではこのような施策をしてきている、東京ではこのようにしてきているという流れではどうか。

２点目として、「本市では」という最後のフレーズについて、要するに、前の計画をこの２行で受けている。この２行で前回の計画を受けるのは、不自然な印象を受けた。例として、「自殺対策計画を策定し、３つの課題を取り上げ、４つの基本施策と４つの重点施策を定め、普及に努めてきました」というように、現在の計画の概要を受けて、今回はというふうにつながるほうがよいのではないか。

紅谷委員　　１８ページの冒頭で、小金井市では、自殺死亡率の減少を目指すため、地域におけるネットワークの強化と、いろいろな取組を推進してきた。そのために自殺死亡率が減少してきていると書かれている。実際に、令和２年に第１次計画が策定され、当時の自殺者数が１７人、それが令和４年には７人になり、大幅に減少している。この取組をしたから１７人から７人になったというように書かれているが、ここでそれだけかなり減少させることができているのであれば、さらにその内容をもっと詰めていけばよりゼロに近くにしていけると思う。取り組みの成果としての根拠もなく書かれている印象を受けるが、事務局としてどう考えているのか。

事　務　局　　確かに第１次計画では、その地域におけるネットワークの強化、自殺対策を支える人材の育成、周知、相談体制の充実を施策として推進はしてきたが、第１次の計画についても課題があると感じている。第１次の計画がうまくいっているから自殺者数が減ってきたのかというと、一概に、完全に施策をやったから低くなったというわけではなく、社会全体の自殺に対する認知が広がっていることや、国・都の取り組みもあり、そういった全体の流れから、減少してきているのかなと感じている。市の取組についてまだまだ課題はあるというところで、今後、この第２次計画を策定して、さらなる対策を推進していきたいということで記載している。

紅 谷 委 員　　この書き方だと、今までやってきたから、その結果として減少してきているように受け取れるので、少し表現を変えたほうがいいと思う。

小金井がそれだけ大幅に減らすことができたのであれば、国や都に率先してアピールできるぐらいの成果なのかと思う。何か具体的な取組をしたから、こういうふうに死亡率が下がってきたのではないかといった分析もあるといいと感じた。

齋 藤 委 員　　自殺者数が、１０年前から７人に減ったが、その減った内容を検証する必要があるのではないか。どの集団が減ったのか、それに対してどういう市の政策が有効であったのかという分析をしないと次へつなげられないように思う。

事　務　局　　齋藤委員の御意見は理解しましたので、可能な限り分析をしていきたい。

齋 藤 委 員　　検証と、それから次の組立てということをぜひお願いしたい。

川 畑 委 員　　地域におけるネットワークの強化といった文言だと、ネットワークとはどういうものかが見えてこない。小金井ではいろんなところで居場所づくり、高齢者の場合は寄り合い場所等があり、数も随分増えている。そういった場所でお話しすることで気持ちが収まるという効果もあったのではないかと思っている。そういうところを文言に入れると分かりやすいかと思う。具体例を入れるとネットワークについてわかっていただけるのではないか。

羽田野委員　　東京都の他の市とか区の特徴というのはあるのか。この中では、そういった比較がされていないので伺いたい。

事　務　局　　河西委員に伺いたいのだが、多摩府中保健所圏内では、そういったデータはあるか。

副 委 員 長　　多摩府中保健所で所管している６市で、自殺担当者連絡会というものを開いており、その中で今回示されているデータと近いものを出しているので、比較は可能である。ただ、人口規模が違ったり、単年で見ていくのはばらつきが出るので、６年間の数

値を合算したものを、年代ごとに見てみたり、年代ごとに合算して変化を見ていくと、年齢層に応じた施策の効果が、見えるようになるかなと思う。

他市と比べるのも一つの方法であるが、市の中でデータがあると思うので、施策とリンクさせながら、分析していくとよいのではないか。

委　員　長　　可能であれば、参考になるような資料があったり、文章の中に小金井市の特徴を細かく盛り込んでいくのがいいのではないかと思う。

則武委員　　今回の議案として、自殺対策計画の趣旨と小金井市の特徴をお示しいただいたが、スケジュールを見ると、この次にその骨子案とか計画案が出てくるのではないか。今回、計画案の骨子が出ていたほうが議論しやすかったと思うが、議論が不十分だと感じている部分は、次回以降議論できると解釈している。

事　務　局　　次回、アンケートの結果等を踏まえて改めて課題を抽出し、具体的な計画の骨子案をできればと思っている。

紅谷委員　　それに関連して、小金井市の特徴として、自殺場所のほとんどは自宅であり、手段は首つりとなっている。個人の家の中で起こっていることについて、どう対策していくかということを考えていく必要がある。

また、自殺未遂の方が１０人に１．５人はいらっしゃる。その方はたまたま自殺できなかったのか、何かきっかけがあってそれが未遂に終わったのか。例えば小金井市が施策で出していることがあってそれに救われたのかとか。そのようなところも次回議論できればと思う。

委　員　長　　未遂の情報というのは、あるのか。

事　務　局　　国のデータというよりも、例えば民間の相談を受けている機関等の集計をまとめたものであれば、自殺を思いとどまった理由等のデータがある可能性がある。そういうものがあれば活用できるかどうか検討したい。

太田委員　　その統計のとり方の問題であるが、自殺という非常に確率として低いものについて、個別の事例の深掘りのほうが原因や対策が明確になるのではないか。目標として数値を出さなければいけないのは分かるが、１人の増減による影響が大きく、１人増えるとパーセントがいきなり上がってしまうので、相対的な比較をするのもパーセントで比較するのが適当なのかどうか疑問に思っている。むしろ、絶対数として多いところをどうアプローチして減らしていくのかというのを深掘りして考えていくほうが、自殺者数を減らす施策につながるのではないかと思う。

齋 藤 委 員　　やはり母集団の数によって非常に左右されますので、母集団に対する比率ということとは考えていかなくてはならないと思う。母集団に対する比率が高い、自殺者の死亡率が高いということであれば、その母集団がどういう特性を持っているのかということを検討し、危険の原因を潰していくような施策が必要である。もちろん個別の問題の深掘りも必要かと思うが、全体的な特徴を出して施策をつくっていく場合には、やっぱり統計的な手法ということが必要になると私は考える。

確かに７名というのは非常に少ないので、個別のことを検討、深掘りしていくという太田委員の意見も非常に重要かと思う。

委　員　長　　自殺という問題そのものも多面的であり、マクロな視点とミクロな視点と両方が必要なので、恐らくどちらの意見も正しいと思っている。

ただ、統計的な面で数値を出す必要もある。それだけでなく個別にこういった対策委員の中でどこまで細かいところが可能かということも、できる限りの議論を尽くしていければと思う。

私も大学内で自殺との関わりが深い部署であるが、数値というのはなかなか実態が見えてこない。自殺率が下がっているからといって、自殺の危険性のある方が減っているのかというとそうではないというのはアンケートで明確であり、数字にとらわれない対策をやっていく必要があるというふうに思っている。

そのほか質問のある方はご発言を。

では、本日の意見を参考に、今回の中においての修正というのを行い、第３回の委員会までに皆様にまたお示しすることになるが、よろしいか。

⑷　次回会議日程について

⑸　その他

委　員　長　　最後に、その他として、委員の皆様から何か情報提供などあるか。

事　務　局　　市で行っている自殺対策の普及啓発活動の一環として、９月は自殺対策強化月間にあたるので、東京都と共催という形で武蔵小金井駅で主に若者を対象に街頭キャンペーンを行う予定であるので、御報告させていただく。

太 田 委 員　　街頭キャンペーンというのは何をするのか。

事　務　局　　具体的には若者を主な対象として、夕方の４時から５時までの間、市の職員と都の

職員でリーフレットを配布する。

委　員　長　　実施日は決まっているのか。

事　務　局　　９月２２日の金曜日に実施する。

委　員　長　　ほかに御意見、質問等がある方は発言を。

委　　員　　なし。

委　員　長　　本日の議題は全て終了したので、これをもって閉会とします。